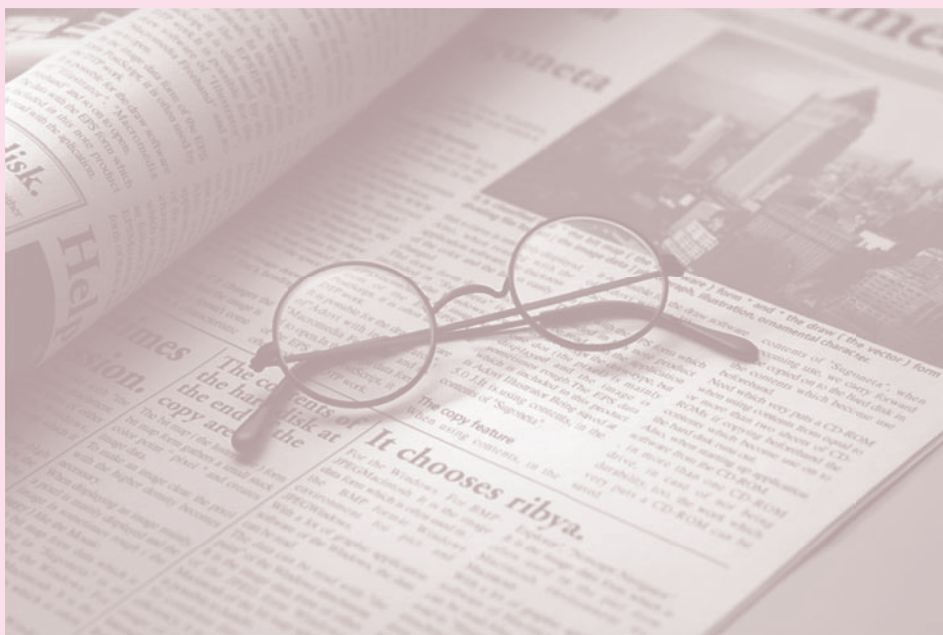


教育哲学会

第57回大会プログラム



主催：教育哲学会

共催：日本女子大学人間社会学部教育学科

2014年9月13日(土)・14日(日)

日本女子大学 西生田キャンパス

大会日程

| 第1日 9月13日(土) | 第2日 9月14日(日) |
|---|---|
| 9:30 受付 (九十年館B棟1階 水田記念学生ホール) | 9:00 受付 (九十年館B棟1階 水田記念学生ホール) |
| 10:00~12:30 一般研究発表 (九十年館B棟1階 14・15教室 2階 24教室) | 9:30~12:00 一般研究発表 (九十年館B棟1階 14・15教室 2階 24・25教室) |
| 12:30~13:30 昼食・休憩 全国編集委員会 (九十年館B棟2階 26教室) 研究討議打ち合わせ (九十年館B棟2階 27教室) | 12:00~13:00 昼食・休憩 課題研究打ち合わせ (九十年館B棟2階 27教室) |
| 13:30~16:30 研究討議 (九十年館B棟1階 10教室) | 13:00~15:45 課題研究 (九十年館B棟1階 10教室) |
| 16:45~17:45 総会 (九十年館B棟1階 10教室) | 16:00~18:00 ラウンドテーブル (九十年館B棟2階 26・27・28教室) |
| 18:00~20:00 懇親会 (九十年館B棟1階 水田記念学生ホール) | |

※大学正門で警備員にこの大会プログラムを身分証の代わりとして提示する必要がありますので、忘れずにご持参下さい。

大会前日

9月12日(金)

| | |
|-------------|---------------------------|
| 16:30~18:30 | 全国理事会 (東京大学 赤門総合研究棟・A208) |
|-------------|---------------------------|

参加要領

○受付 九十年館B棟1階 水田記念学生ホール

○大会参加費 3,000円 (学生2,000円)

○懇親会費 5,000円 (学生3,000円)

○一般研究発表 発表20分/質疑応答5分

※万一発表を取りやめる場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。

なお、欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。

※大学近辺に飲食店はほとんどありませんので、昼食は学生食堂をご利用ください。
両日営業しています。

※学内へのお車での入構はできません。公共交通機関でおいでください。

第1部会：アメリカの教育哲学（九十年館B棟1階 14教室）

司会：藤井千春（早稲田大学）・松下晴彦（名古屋大学）

- 10:00 「反省的实践」論の解釈に伴う困難について
杉原央樹（早稲田大学大学院・院生）
- 10:25 後期ブルーナーの「文化」と「心」の二元論とその教育学的含意
相馬宗胤（広島大学大学院・院生）
- 10:50 W. ジェイムズによる「経験」概念の再構成と教育
岸本智典（慶應義塾大学大学院・院生）
- 11:15 デューイ教育評価論の再検討
—真正の評価論の源流を探る視点から—
安部高太朗（東京大学大学院・院生）
- 11:40 カレッジにおけるラーニング
—A・ミクルジョンが求めた統合性と一貫性—
間篠剛留（慶應義塾大学大学院・院生）
- 12:05 全体討議（～12:30）

第2部会：フランスの現代思想と教育（九十年館B棟1階 15教室）

司会：藤田雄飛（九州大学）・森田裕之（名古屋芸術大学）

- 10:00 デリダの言語哲学における単独性の問題
—他者への応答としての言語使用—
朱 燁（京都大学大学院・院生）
- 10:25 人間存在をめぐる承認の営みの教育的意義と技法
—リクールの承認論を手がかりにした「歴史の作業」再考—
朝岡 翔（京都大学大学院・院生）
- 10:50 創造的思考と受動的自己
—ドゥルーズの「イメージなき思考」を中心に—
松枝拓生（京都大学大学院・院生）
- 11:15 ジル・ドゥルーズの哲学における学び概念の位置づけ
稲田祐貴（東京大学大学院・院生）
- 11:40 教育における憧憬と圧力の矛盾的包摂
—ベルグソンの『道徳と宗教の二源泉』から—
山田良憲（立命館大学・非常勤講師）
- 12:05 全体討議（～12:30）

第3部会：存在論・現象学（九十年館B棟2階 24教室）

司会：西岡けいこ（香川大学）・西平 直（京都大学）

- 10:00 ハイデガーの手
—行為と忘却について—
李 舜志（東京大学大学院・院生）
- 10:25 フッサール倫理学における個人と共同体
武藤真理子（東京大学大学院・院生）
- 10:50 政治的判断における「他者」とは誰か
—H. アレントの「複数性」概念の射程—
村松 灯（東京大学大学院・院生）
- 11:15 「手すりなき思考」の場所としての「過去」
—H.アレントのW.ベンヤミン解釈をてがかりに—
田中智輝（東京大学大学院・院生）
- 11:40 教育目的論における「翻訳」概念の意義
—S.K.Langerの「シンボル形式」論に基づいて—
尾崎博美（新渡戸文化短期大学）
- 12:05 全体討議（～12:30）

12:30~13:30 昼食・休憩
全国編集委員会 (九十年館B棟2階 26教室)
研究討議打ち合わせ (九十年館B棟2階 27教室)

13:30~16:30 研究討議 (開催校企画) (九十年館B棟1階 10教室)

「教育学の古典」はいかに創られ、機能してきたのか
—— 教育哲学のメタヒストリー ——

提案者：綾井桜子 (十文字学園女子大学)
藤本夕衣 (日本学術振興会特別研究員 (RPD)・慶應義塾大学)
室井麗子 (岩手大学)
司会：下司 晶 (日本大学)
矢野智司 (京都大学)

16:45~17:45 総 会 (九十年館B棟1階 10教室)

18:00~20:00 懇 親 会 (九十年館B棟1階 水田記念学生ホール)

第1部会：人間形成の哲学（九十年館B棟1階 14教室）

司会：加藤守通（上智大学）・隈元泰弘（神戸親和女子大学）

- 9：30 後期シェリングのポテンツ論
—自覚存在の生成と展開のプロセス論として—
濱田 覚（京都大学大学院・院生）
- 9：55 ヘルバルトの「完全性」概念とその歴史哲学的含意
小山裕樹（東京大学大学院・院生）
- 10：20 L.シュトラウスにおける神学・政治問題の検討
—リベラル・エデュケーションとの関係に着目して—
志田絵里子（東京大学大学院・院生）
- 10：45 ジグムント・バウマンの社会思想における教育
—初期の論考との関連性に着目して—
久保田有貴（慶応義塾大学大学院・院生）
- 11：10 F.ローゼンツヴァイクの対話的な思想の人間形成論的意味
—「愛」と「固有名」に着目して—
田中直美（お茶の水女子大学大学院・院生）
- 11：35 全体討議（～12：00）

第2部会：ドイツの教育思想（九十年館B棟1階 15教室）

司会：坂越正樹（広島大学）・山口 匡（愛知教育大学）

- 9：30 W.v.フンボルトにおける「力」(Kraft) 概念
—プロイセン中等学校改革案を手がかりに—
石本沙織（京都大学大学院・院生）
- 9：55 フンボルトにおける形式的陶冶論と古代ギリシア
伊藤敦広（慶應義塾大学大学院・院生）
- 10：20 カントにおける「神」の理念と「道德教育」
土屋 創（東京大学大学院・院生）
- 10：45 「人間はなんのために生きるのか」をカントはこう考えていた
寺崎賢一（麗澤大学・非常勤講師）
- 11：10 全体討議（～11：35）

第3部会：レヴィナス・歓待・言語（九十年館B棟2階 24教室）

司会：奥野佐矢子（神戸女学院大学）・小野文生（同志社大学）

9：30 レヴィナス言語論の教育学的射程

安喰勇平（広島大学大学院・院生）

9：55 E.レヴィナスの感性論における「近さ」の意味

—「触れること」に関する人間形成論的考察—

山口美和（上田女子短期大学／東京大学大学院・院生）

10：20 他者と歓待

—自閉症児と不登校児の出会い—

藤井奈津子（梅花女子大学）

10：45 哲学の実践としての教えることと学ぶこと

—後期ウィトゲンシュタイン哲学をめぐる言語観念論論争の検討から—

山口裕毅（広島大学）

11：10 全体討議（～11：35）

第4部会：日本の教育思想（九十年館B棟2階 25教室）

司会：岡本哲雄（関西学院大学）・西村拓生（奈良女子大学）

9：30 木村素衛における歴史的世界への関心と国民教育の問題

山田真由美（慶應義塾大学大学院・院生）

9：55 木村素衛の教育学における美学的側面の可能性

—「技術的身体」に働く「情趣」の概念に着目して—

門前斐紀（京都教育大学美術教育専攻・研究生）

10：20 東井義雄の教育実践の思想史的背景

神戸和佳子（東京大学大学院・院生）

10：45 子どものことばと「からだうた」

寺崎恵子（聖学院大学）

11：10 1920年代以降の長野県における西田哲学の系譜

—島木赤彦と金原省吾を中心として—

渡辺哲男（立教大学）

11：35 全体討議（～12：00）

12:00~13:00 昼食・休憩
課題研究打ち合わせ (九十年館B棟2階 27教室)

13:00~15:45 課題研究 (学会理事会企画) (九十年館B棟1階 10教室)

思想と現場をつなぐ
—— 教育哲学のフロンティア (1) ——

提案者：上地完治 (琉球大学)
田端健人 (宮城教育大学)
西村拓生 (奈良女子大学)
司会：田中每実 (武庫川女子大学)
小玉重夫 (東京大学)

16:00~18:00 ラウンドテーブル

- (1) アメリカにおけるフェミニズムと教育研究の展開 (九十年館B棟2階 26教室)
企画者：伊藤博美 (名古屋経済大学)
藤原直子 (椛山女学園大学)
虎岩朋加 (名古屋大学)
- (2) 「教養教育」の哲学的・思想史的基盤 (九十年館B棟2階 27教室)
企画者：松浦良充 (慶應義塾大学)
- (3) 人間形成とライフヒストリー・アプローチ
——人間形成論の伝統からなにを学ぶか—— (九十年館B棟2階 28教室)
企画者：鳥光美緒子 (中央大学)
藤井佳世 (横浜国立大学)
山名 淳 (京都大学)

【第1日目】13:30~16:30

九十年館B棟1階 10教室

「教育学の古典」はいかに創られ、機能してきたのか
—— 教育哲学のメタヒストリー ——

提案者：綾井桜子（十文字学園女子大学）

藤本夕衣（日本学術振興会特別研究員（RPD）・慶應義塾大学）

室井麗子（岩手大学）

司会：下司 晶（日本大学）

矢野智司（京都大学）

コメニウス『大教授学』、ルソー『エミール』、デューイ『学校と社会』等、「教育学の古典」は、かつて教育の本質や理念を示すものとみなされ、教育学全体の共有財とされてきた。こうした古典の分析は、教育学内の専門分化が進むにつれ、教育哲学が中心的に担うこととなったが、近年の教育哲学では、教育の本質や理念を問うことよりも、多様な教育の解釈を提示することが優先されるようになり、古典の分析は周辺化されつつある。

教育学・教育哲学にとっての古典の意義は、本会でも繰り返し論じられてきた。しかしここでは、教育学・教育哲学というディシプリンや古典とされるテキストの存在が自明の前提とされることが多かった。それに対して本研究討議では、「教育学の古典」とされるテキスト群は近代教育学の成立過程において創出された歴史的な構築物であり、また近代教育学そのものが「教育学の古典」の創出を通して構築されてきた、と考えたい。この構築過程は一度限りのものではない。研究や出版等による「教育学の古典」の再創出はその度に教育学の輪郭を再形成し、教育学の再形成そのものが翻って「教育学の古典」の再創出とその機能の変容を惹起するのである。

古典なき時代といわれる現代にあつて、「書を捨てよ町へ出よう」と嘯くのも、「古典の復権」を牧歌的に唱えるのでもなく、「教育学の古典」がどのように創出され機能してきたのかを議論の俎上に載せることで、これからの教育哲学のあり方を問い直してみたい。

なお当日は、参加者の議論を誘発する仕掛けを試みる予定である。

【第2日目】13:00~15:45

九十年館B棟1階 10教室

思想と現場をつなぐ
—— 教育哲学のフロンティア (1) ——

提案者：上地完治 (琉球大学)

田端健人 (宮城教育大学)

西村拓生 (奈良女子大学)

司会：田中每実 (武庫川女子大学)

小玉重夫 (東京大学)

今日の教育哲学は、実践性の欠如や教育現実構成力の弱さを批判されています。私たちの多くは、文献を読み、教育の現場をもっています。批判に応答するためには、文献読解と現場体験をどのようにつなぎ、どのように生かすべきでしょうか。物語論や美学、批判理論、現象学などの立場から「思想」を探索しつつ、それぞれに固有の「現場」を保持している会員に登壇していただき、教育哲学の可能性を探りたいと考えます。「思想」と「現場」とはそれぞれ何であり、両者はどうつながるのでしょうか。「思想研究」と「臨床研究」はどう相関すべきでしょうか。

「思想」の「現場」への「つながり」については、対象化や操作などを除けば、外在的支援、内在的支援、相互性の三つの形 (cf. 田中每実『臨床的人間形成論の構築』37頁) が考えられます。いずれの形であれ、教育状況の「外」にあって教育状況に関わろうとする思想は、その啓蒙性をどう考えるべきでしょうか。三つの形のうちどれかが重視されるべきなのでしょうか。思想の現場への関与の難しさから、異質な他者への疎通におけるレトリックや戦略の大切さがあきらかです。これをどう考えるべきでしょうか。思想の現場への関わりは、現実構成にどう作用するのでしょうか。さらに現場に関わることは、思想そのもののあり方に、どう作用するのでしょうか。

フロアの参加者のみなさんとともにこれらについて考えを進め、教育哲学のありようを反省し、さらには、現場での臨床的関わりを通して教育哲学と現場が連携して「公共性」を組織すべき道筋を展望したいと考えます。

〔ラウンドテーブル1〕

【第2日目】16:00~18:00

九十年館B棟2階 26教室

アメリカにおけるフェミニズムと教育研究の展開

企画者・提案者

伊藤博美 (名古屋経済大学) ・藤原直子 (椋山女学園大学) ・虎岩朋加 (名古屋大学)

2013年、アメリカの教育哲学会(PES)年次大会のセッションの一つは、フェミニズムと教育の論集に対する意見収集の場であり、同年、論集 *Education Feminism: Classic and Contemporary Readings* が出版された。

同書は1994年出版の *The Educational Feminism Reader* の趣旨を継承している。1982年から2011年の諸論文を、1993年までのものを古典(Classics)、1998年から2011年のものを現代(Contemporary)に分け、さらにそれぞれを教育と学校(Education and Schooling)、教授と教育学(Teaching and Pedagogy)に分けている。

そこで本ラウンドテーブルでは、1994年と2013年の論文集の比較を通して、約20年の間にフェミニズムが教育をどう論じてきたかを検討してみたい。

〔ラウンドテーブル2〕

【第2日目】16:00~18:00

九十年館B棟2階 27教室

「教養教育」の哲学的・思想史的基盤

企画者・司会

松浦良充 (慶應義塾大学)

提案者

加藤守通 (上智大学) ・櫻井佳樹 (香川大学)

藤本夕衣 (日本学術振興会特別研究員 RPD (慶應義塾大学)) ・松浦良充 (慶應義塾大学)

大学における「教養教育」は、依然として論争的となる概念である。本企画ではこの概念の哲学的・思想史的基盤について、さまざまな観点から検討することによって、今後の教養概念の理論的構成、教養教育や教養形成のあり方を展望する。具体的には、現在の教養教育や教養概念を構成してきた「パイディア」「リベラル・アーツ」「ビルドゥング」「(大正・昭和期における)教養主義」などの諸概念をとりあげる。現在、大学における教養教育は、専門教育との融合

や学際化によって学士課程全体を包含する可能性をもつ一方、機能主義が跋扈するなかでリメディアル教育や学習技能育成、計測可能な学習成果の産出に矮小化される傾向もあわせもつ。またいわゆるグローバル化傾向は、国民国家の大学が文化=教養と不可分であった前提を劇的に揺さぶりつつある。こうした状況のもとで、哲学的・思想的観点からの教養教育の概念・理論構成は重要な意義をもつはずである。

【ラウンドテーブル3】

【第2日目】16:00~18:00

九十年館B棟2階 28教室

人間形成とライフヒストリー・アプローチ
—— 人間形成論の伝統からなにを学ぶか ——

企画者

鳥光美緒子（中央大学）・藤井佳世（横浜国立大学）・山名 淳（京都大学）

提案者

藤井佳世（横浜国立大学）・山名 淳（京都大学）

指定討論者

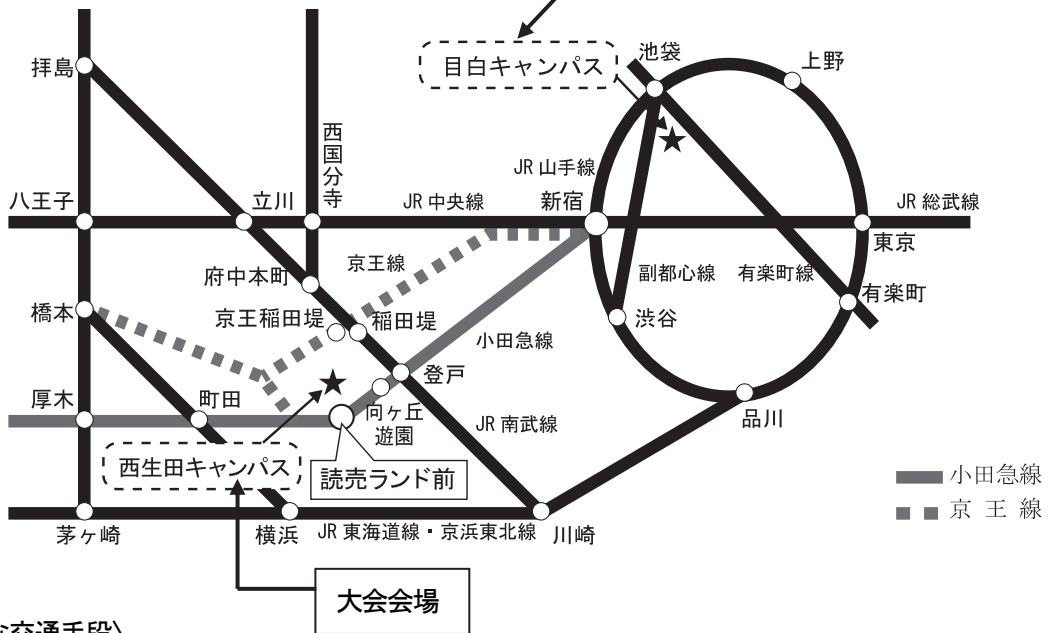
矢野智司（京都大学）

本ラウンド・テーブルは、ドイツで先行して知見の蓄積されている、ドイツ的な臨床的人間形成論、人間形成論的ライフヒストリー（Bildungstheoretische Biographieforschung）に示唆をえて、このわが国の臨床的人間形成論を発展させることを意図して企画したものである。

ライフヒストリー法はわが国ではすでに、社会学・人類学・心理学・教育学などの諸領域で、1990年代以降急速に普及、定着、研究の蓄積もある。その際、主体への接近には物語論的アプローチが用いられ、人間形成にもこのアプローチが援用された。これに対して私たちは、人間形成論的アプローチという、教育学に固有のアプローチが可能ではないかと考えている。人間形成論の伝統は、人間形成を解読する際にどのような理論的視点を提供しうるのか。話題提供と討議を行う。

日本女子大学西生田キャンパスへの交通アクセス

交通案内図



〈おもな交通手段〉

- ① 小田急線「向ヶ丘遊園」駅（快速急行、多摩急行以外停車）下車→北口バス乗り場③より学バス約20分（下記の時間帯で運行する予定です。無料。なお、学バス乗車の際に大会プログラムの提示が必要です。お忘れになった場合は乗車の際お名前を書いていただきます）。

・バス時刻表 [9月13日 (土)]

| | 向ヶ丘遊園北口発 | | 日本女子大学発 |
|----|----------|----|---------|
| 8 | 30 | 8 | |
| 9 | 00 15 35 | 9 | 40 |
| 10 | 00 | 10 | 40 |
| 11 | 00 | 11 | 40 |
| 12 | 00 | 12 | 40 |
| 13 | 00 | 13 | |
| 14 | | 14 | 40 |
| 15 | 00 | 15 | 40 |
| 16 | 00 | 16 | 40 |
| 17 | | 17 | |
| 18 | | 18 | 00 |
| 19 | | 19 | 00 |
| 20 | | 20 | 15 45 |

[9月14日 (日)]

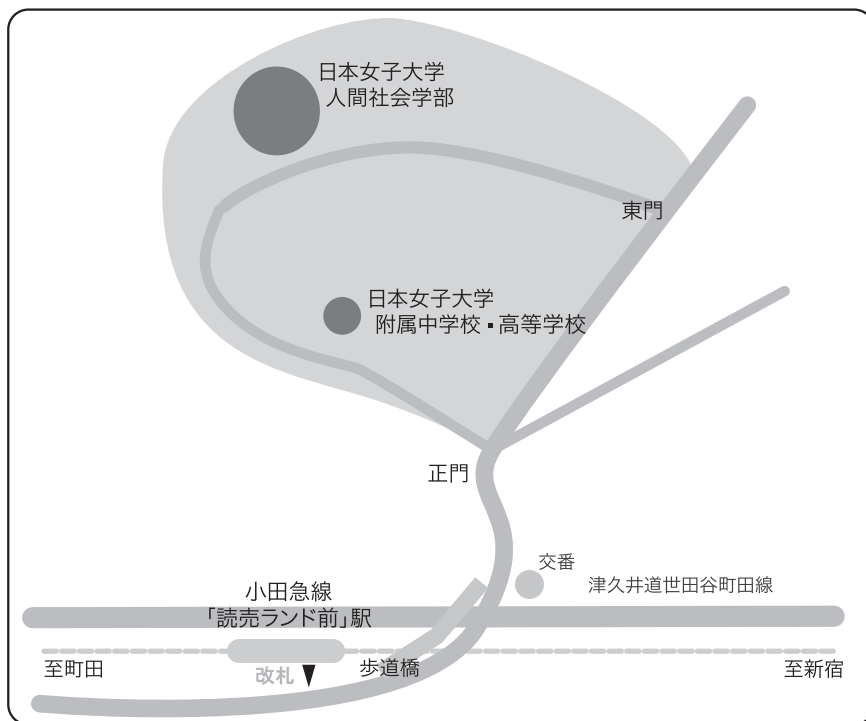
| | 向ヶ丘遊園北口発 | | 日本女子大学発 |
|----|----------|----|---------|
| 8 | 30 55 | 8 | |
| 9 | 05 30 | 9 | 10 |
| 10 | 30 | 10 | 10 |
| 11 | 30 | 11 | 10 |
| 12 | 30 | 12 | 10 |
| 13 | | 13 | |
| 14 | 30 | 14 | 10 |
| 15 | 30 | 15 | 10 |
| 16 | 30 | 16 | 10 |
| 17 | | 17 | |
| 18 | | 18 | 15 45 |
| 19 | | 19 | |

- ・「向ヶ丘遊園」へは新宿から急行で約22分。町田から急行で約15分。
- ・「向ヶ丘遊園」北口、南口からはタクシーも出ています（北口からのタクシーは少ないです）。会場まで約20分。
- ・朝は北口改札口に案内係がおりますので、不明な点はお尋ねください。

②小田急線「読売ランド前」駅（各駅停車、準急、区間準急のみ停車）下車→徒歩約20分

- ・「読売ランド前」へは新宿から急行→各駅停車（あるいは準急）の乗り継ぎ（向ヶ丘遊園で乗換の場合）で約32分。町田から急行→各駅停車（あるいは準急）の乗り継ぎ（新百合ヶ丘で乗換の場合）で約18分。

〈小田急線「読売ランド前」駅から会場まで〉



- ・朝は改札口前に誘導係がおりますので、不明な点はお尋ねください。
- ・駅前からタクシーはほとんど走っておりません。
- ・「読売ランド前」駅から大学構内までは坂道が続きます。お荷物の多い方は「向ヶ丘遊園」駅よりタクシーのご利用をお勧めします。
- ・大学正門で警備員にこの大会プログラムを身分証の代わりとして提示する必要がありますので、忘れずにご持参ください。
- ・学内に車での入構はできません。

日本女子大学西生田キャンパス 大会会場

〈キャンパス全体図〉



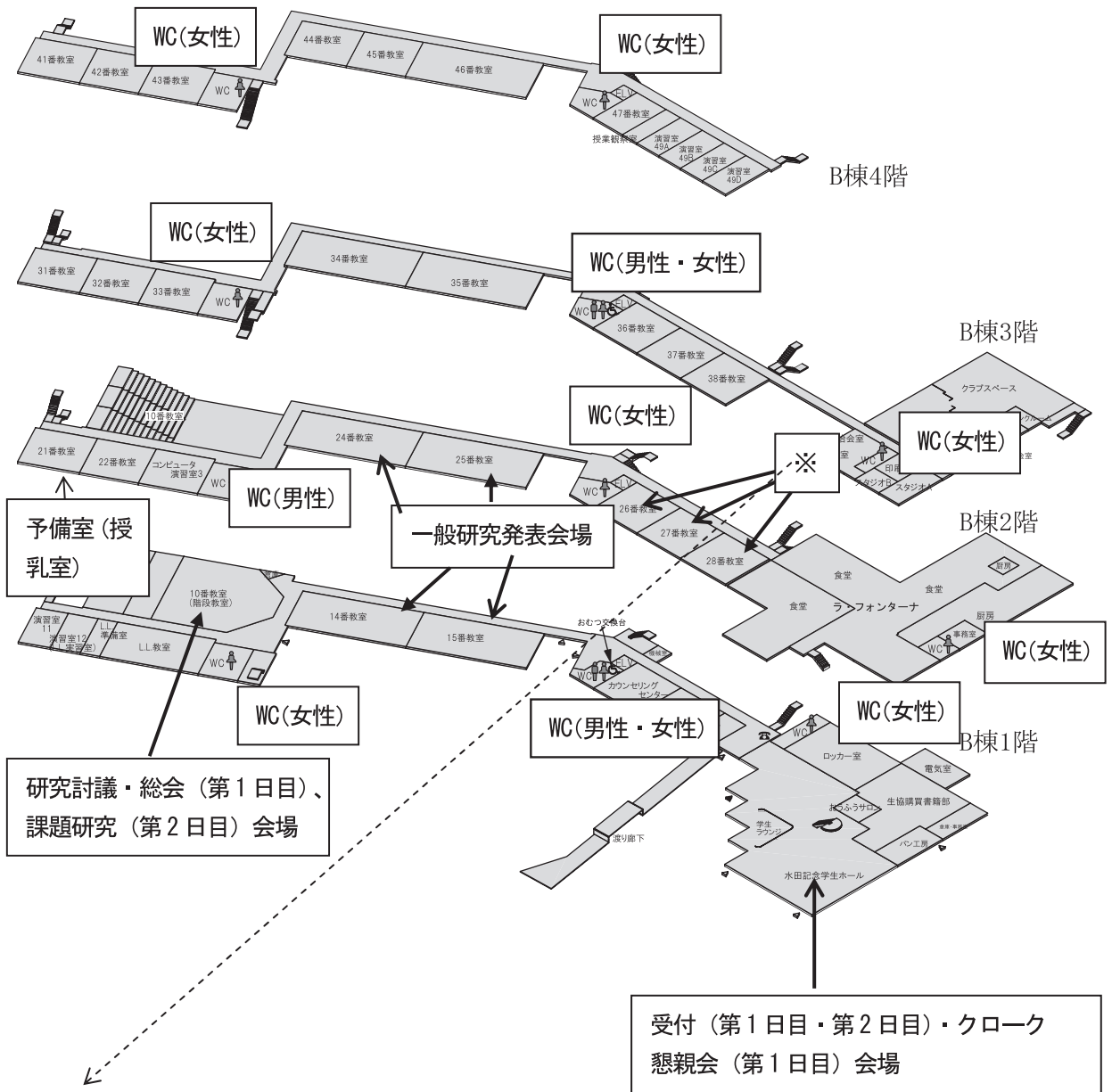
※西生田キャンパスは全面禁煙です。

日本女子大学西生田キャンパス 大会会場

〈九十年館B棟配置図〉

※男性用お手洗いが少ないので、ご注意ください。

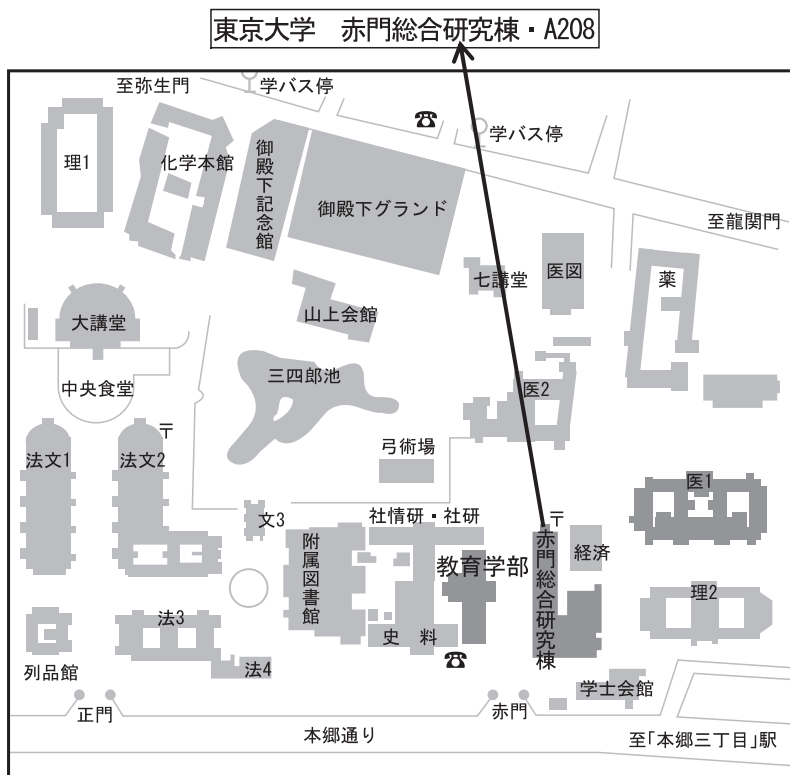
九十年館A棟にも男性用お手洗いがありません (当日会場でご案内致します)。



※全国編集委員会 (第1日目) : 2階 26教室

研究討議打ち合わせ (第1日目)・課題研究打ち合わせ (第2日目) : 2階 27教室

ラウンドテーブル (第2日目) : 2階 26・27・28教室



〔教育哲学会第57回大会 準備委員会〕

- | | |
|------|--------------------|
| 委員長 | 今井康雄 (日本女子大学) |
| 事務局長 | 渡辺哲男 (立教大学) |
| 準備委員 | 綾井桜子 (十文字学園女子大学) |
| | 下司 晶 (日本大学) |
| | 北詰裕子 (東京学芸大学) |
| | 柴山英樹 (日本大学) |
| | 秋保恵子 (日本女子大学ほか非常勤) |
| | 小谷由美 (立教大学ほか非常勤) |

教育哲学会 第 57 回大会

教育哲学会 第 57 回大会準備委員会事務局

〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1

日本女子大学人間社会学部教育学科 今井康雄研究室気付

準備委員会事務局アドレス：kyotetsu2014@gmail.com